

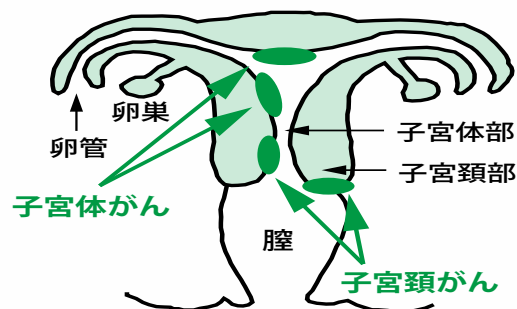
2年に1回受けていますか？ ～子宮がん検診～

子宮がんは20代や30代の若年層で増えています。「自分には関係ない」「まだ大丈夫」そう思っていないませんか？子宮がんは、これから結婚や出産を迎える年代の女性や、幼い子どもを持つ親など、女性なら誰でもかかる可能性のある病気です。



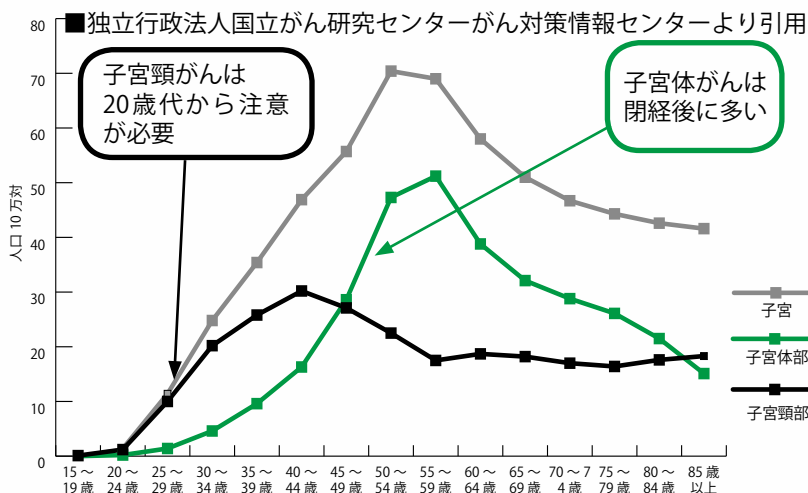
子宮がんとは？

子宮にできるがんのことです。がんができる場所によって「子宮頸がん」と「子宮体がん」の2種類に分けられます。この二つのがんはそれぞれ特徴が異なります。



それぞれのがんの特徴

	子宮頸がん	子宮体がん
発生部位	子宮頸部 (子宮の入り口)	子宮体部 (胎児が育つ部分)
高発年代	30～40代 (20～30代で急増)	閉経後の50～60代
原因	ヒトパピローマウイルス(HPV)による感染	ホルモンバランスの異常、出産の経験がない、肥満、糖尿病など
自覚症状	ほとんどなし	不正出血、おりものの異常



早期発見・早期治療をするために検診を受けましょう！

子宮がんはHPVが原因と分かっています。
HPVはがんに進行するまでに長期間(平均で10年以上)かかります。

つまり

定期的な検診(2年に1回)を受けることで早い段階でがんを発見できます

また規則正しい生活習慣をしましょう！

禁煙や太りすぎを解消し、生活習慣を見直しましょう。
また性交渉の時にはコンドームを必ず使用しましょう。

※気になる症状がある場合には、検診を待たずにすぐに婦人科医療機関を受診してください。

※指定の医療機関は4月号広報をご覧ください。大きく健康子育て課にお問い合わせください。

問合せ先

健康子育て課 健康づくり担当
☎(46)5113